

## 二、製 造 係

### 1. 鰹節類加工技術指導試験

前年度に引続いて技術指導とモデル生産587貫を行つた。

鰹の本県陸揚は本年も予想外に少く焼津より求めざるを得なかつた。春物は不漁と高値のために殆ど見送り、夏から秋の近海物以外に小笠原物を切込んだ。この原料を使用したのは本年がはじめてであり、当地においてどんな成績が得られるか、新しい試みであつた。

結局秋物は春物よりも販売値の見透しが確実であるだけに極めて堅実で注目されるが、将来本県でこの原料の陸揚は可能性が乏しいので唯作業のつなぎとしての価値を調査した。

又、民間指導としては、蒲郡市三谷町業者において約500貫の生産を指導した。

#### (1) 原料購入状況並製品歩留について

回数	原 料 購 入				製 品					歩 留	摘 要
	場 所	月 日	数 量	金 額	種 別	上物	並物	傷物	計		
1	三谷魚市場	6. 23	500.0	125,000	亀 節	15.0	66.0	9.0	90.0	18.0	近海物
2	焼 津	7. 12	240.0	60,000	"	41.0	—	2.0	43.0	17.9	"
3	"	7. 20	240.0	55,200	"	42.0	—	0.5	42.5	17.7	"
4	"	7. 30	300.0	67,500	"	30.0	20.0	0.5	50.5	16.8	小笠原物
5	"	8. 7	480.0	103,200	"	60.0	24.0	1.0	85.0	16.7	"
6	"	8. 20	350.0	105,000	本 節	61.3	—	1.5	62.8	18.0	"
7	"	8. 25	370.0	111,000	"	63.6	—	2.0	65.6	17.7	"
8	三谷魚市場	9. 10	222.8	55,700	亀 節	32.5	5.0	3.5	41.0	18.0	近海物
9	三重県長島	10, 25	200.0	60,000	本 節	35.1	—	1.5	36.6	18.3	"
10	三谷魚市場	10. 28	390.0	97,500	"	51.5	15.0	3.5	70.0	18.0	"
計			3,292.8	840,100		432.0	130.0	25.0	587.0	17.8	

備考 1. 原料1メ当り平均価格 255円14銭

2. 前年の歩留18%に及ばないのは小笠原物亀節が低率であつたためである。

#### (2) 経済調査について

支 出				収 入			
品 目	数 量	金 額	摘 要	品 目	数 量	金 額	摘 要
かつを	3,292.8	840,100		本節・上物	160	320,000	
技術者備入費	人分 587	40,503	製品1メ当り69円として計算	" 傷物	5	7,500	
男 人 夫	168	50,400		亀節・上物	270	445,500	
女 人 夫	122	24,400		" 並物	130	208,000	
紙 袋	枚 50	3,650		" 傷物	20	29,250	

二硫化炭素	本 14	1,120				
薪	束 900	29,250				
煉炭	ケ 120	3,480				
その他		4,940	木材、竹、銅線等 補修材料			
計		997,843		計	585	1,010,250
備考 技術者は生産の多少にかかわらず長期間雇傭契約を必要とするもので、少量の生産計画には、自から割高となつて適当でないので、一応生産能力を製品3,500匁として1匁当りの額を求めて比較した。			備考 この他に鮫節上物 2匁を商品見本その他に使用した。			

### (3) 結 び

1. 作業は概ね成績良好に終了した。
2. 本県では、鯉漁期が短かくて事業的に困難視されているが、この試験の結果は 4月～12月までの作業が可能であり、県外の原料でも必ずしも不可能ではないことが認められた。随つて年間 2—3ヶ月の休業で済み、本県にもよく適する加工業と考えられる。
3. 経済価値を考察してみると、
  - 生産費中、原料費と技術者の費用を除いた諸経費は製品10貫当り 2,000円となる。又販売価格から原料費、諸経費を除けば製品10貫当り900円となり、これを全部技術者備入（1人月23,000の6ヶ月）に充当すると、鯉節1,530貫を生産しなければならない。
  - 更に生原料に逆算（1,530貫×55）すれば 8,415貫となる。即ち技術者1人を備入する場合でも鯉10,000貫の切込みにて維持出来ることになる。10,000貫の切込みは必ずしも不可能ではなく当分の間は技術者備入の方法で製造するのが堅実である。
4. この仕事は賃金の比率極めて高い点から技術習得することによつて収益も増し、小企業としてよく適していることが認められる。
5. 今後技術者の養成に重点をおいて斯業の普及をはかると共にこれを基盤に、鯉漁船の誘致につとめ、以て逼迫しつつある漁港に一大福音をもたらさなければならぬ。

## 2. 水産物罐詰製造事業試験

前年度に引続き水産物罐詰事業試験を計画し、あさり味付罐詰2,000c/s（6号4打入）を目標にその生産を開始したが、途中にて原料の収集困難なるため、1,510c/sの生産に留め他の原料を物色していたところ、本年は例年にないさんまの豊漁に恵まれ、早速その生産に着手したが、安価な原料の入手困難なるため、390c/s程度生産したに過ぎなかつた。

### A. あさり味付罐詰製造事業試験

#### 1. 製造工程

昨年同様、空罐は6号4打入を使用した。先ず原料を攪拌しつつ洗滌し砂と汚物の除却をはかり煮熟、放冷後O型パキユーム、シーマーにて巻締の上232°F（7Lb）80分の殺菌加熱を行つた。

## 2. 生産数量

月日	原料購入数量	日産	累計	1箱当り原料所要量	摘要
7. 19	970	c/s 120	c/s 120		
20		120	240		
21		120	360	2.69	3日平均1箱原料所要量
22	965	110	470		
23		130	600		
24		130	730	2.61	同上
8. 6	735	130	860		
7		150	1,010	2.63	2日平均1箱原料所要量
9. 5	745	120	1,130		
6		160	1,290	2.67	同上
7	575	100	1,390		
8		120	1,510	2.61	同上
計	3,990				
平均	798	126		2.64	

## 3. 調味液について

味付は罐内味付を採用した。販売価格の面で全糖とすることは困難なるため本年度より人工甘味料及び水飴を使用した。配合割合は次の通り。

品名	数量	備考
醤油	1 升	大津屋2号醤油
砂糖	80 匁	中双
水飴	80 匁	澱粉さらし水飴
ズルチン	0.6 gr	食品衛生検定法合格品
カラメル	1 匁	
水	3 合	

## (4) 肉詰量

肉詰は、6号罐に固型170gr、調味液40grを加え内容総量を210grとした。

## (5) 生産費の調査

費品目名	単価	1,010c/s分		500c/s分		計	
		数量	金額	数量	金額	数量	金額
賃金							
男 人 夫	円 100	186人	円 18,600			186人	円 18,600
女 人 夫	200	66人	13,200	54人	10,800	120人	24,000
消耗品費							
空 缶		1,010箱	454,500	500箱	225,000	1,510箱	679,500

砂 糖	83	500斤	41,500	250斤	20,750	750斤	62,250
水 飴	310	102℥	31,620	50℥	15,500	152℥	47,120
ズ ル チ ン	550	2箱	1,100	1箱	550	3箱	1,650
カ ラ メ ル	320	2℥	640	1℥	320	3℥	960
醬 油	2,050	38樽	77,900	18樽	36,900	56樽	114,800
生 姜	850	6℥	5,100	4℥	4,000	10℥	9,100
氷	1,650	3屯	4,950	2屯	3,300	5屯	8,250
フ ラ ス キ ン	425	2缶	850	—	—	2缶	850
塩	720	2俵	1,440	1俵	720	3俵	2,160
針 金		1巻	3,500	0.5巻	1,750	1.5巻	5,250
石 鹼		1缶	700	1缶	700	2缶	1,400
燃 料 費							
石 炭	7,500	4屯	30,000	2屯	15,000	6屯	45,000
揮 発 油	35	200立	7,000	100立	3,500	300立	10,500
原材料費							
あ さ り	140	2,670℥	373,800	1,320℥	184,800	3,990℥	558,600
諸 経 費			41,706		20,853		62,559
計			1,108,106		544,443		1,652,549
生 産 数 量		1,010c/s		500c/s		1,510c/s	
1 箱 当 り 生 産 費			1,097.14		1,088.89		1,094.411
1 缶 当 り 生 産 費			22.86		22.69		22.80

備考 昨年度の生産価格1缶25円94銭に比し3円14銭を節減することが出来た。

(6) 販売について

販売については3年目なので、比較的容易であつた。東京、大阪方面にも照介したが採算が合わず、名古屋のY商事、T商店へ平均23円16銭にて売渡した。

(7) あさり味付罐詰製造の本県における適応性

3年間に亘る製造の結果当初困難に思えた、あさり味付罐詰の製造も軌道に乗り、年1年品質も向上し生産原価も相当縮める事が出来るようになって来たが、佃煮等の利用も次第に多くなり、価格も上昇して罐詰の生産も苦しくなつて来た。しかしあさり利用についての啓蒙の効果は大きく価格の維持が出来るようになった役割は大いに注目してよい。

全国的にその生産を眺めてみると、29年では約80,000箱を生産し、その約8割は味付罐詰によつて占められているが、味付罐詰としての国内消費限界は100,000箱までが予想されるのでまだ進出の余地はあると思う。

各地の実績を見ると、あさり罐詰の生産量においては熊本県が50%を占め、福岡県、千葉県、東京都がそれに次いでいるが、本県においても燻製油漬、水煮等の罐詰により輸出向をねらい高級品を生産しつつ、原料の粒の悪いものや多量に魚獲された時を味付に利用するならば頗る理想的であり、これ等先進県に劣らない明るい将来があると考えられる。

B. さんま味付罐詰製造事業試験

愛知県に水揚げされるさんまは殆んどないのであるが、本年の如き豊漁に恵まれば本県にてもその加工が可能ではないかと考えられるので、500箱の計画でその生産に着手した。

(1) 製造工程

原料を水洗し、頭部を切断し同時に内臓を除去する。後一片を1寸6分5厘に切断し、Be10°にて20分塩漬を行った。塩漬後再び水洗し6号罐に210grを菊詰し清水を注入して100.Cにて20分蒸煮を行なう。しかる後この注入水を廃棄し調味液40grを注入してO型パキユームシーマーにて巻締め8Lb60分で殺菌加熱を行ない急冷して製品とする。

製造後期のものには一部原料の鮮度悪く、歩留も悪くて開罐時の形態の悪きものも見られたが、一般には良好なものであった。

(2) 歩留

原料	頭部内臓除去後	内詰蒸煮後	開罐時
100%	79%	66%	60%
	100%	85%	78%
		100%	94%

肉詰において固型規格の175grを維持せんとするには、生詰の場合210gr以上を必要とした。したがって1箱当り原料所要量は普通約3貫500匁であった。

(3) 調味液

醤油	砂糖	ズルチン	水
1升	50匁	0.8gr	5合

(4) 生産数量

月 日	11. 10	11. 11	11. 12	11. 13	11. 14	11. 15	11. 16	11. 17	11. 18	計
生産数 %	26	35	45	43	50	51	41	52	50	393

初回で作業に不馴れなため予期した日産能力を挙げる事が出来ず、上記の数量に留まつてしまった。

(5) 生産費調査

費目	品名	単価	数量	金額	摘要
賃金					
	男 人 夫	300.00	21人	6,300.00	
	女 人 夫	200.00	36人	7,200.00	
消耗品費					
	空 缶		394箱	181,240.00	6号白缶4打入
	醬 油	2,050.00	7樽	14,350.00	大津屋 2号
	砂 糖	84.00	100斤	8,400.00	
	ズ ル チ ン		1箱	550.00	食品衛生検定法合格品
	塩	720.00	8俵	5,760.00	白塩50K入
	石 鹼		1缶	700.00	粉石鹼、洗缶用
	針 金		0.3卷	1,050.00	

レベ	表 70	18,864	13,204.80
燃料費			
石炭	7,500.00	1.8吨	13,500.00
原材料費			
さんま	50.00	1,627.5貫	81,375.00
諸経費			13,902.00
計			347,531.80
生産数量		393c/s	
1箱当り生産費			884.31
1缶当り生産費			18.43

(6) 開 罐 成 績

番 号	1	2	3	4
製造年月日	30.11.10	30.11.16	30.11.14	30.11.14
開缶年月日	30.11.11	30.11.17	31. 8. 4	31. 8. 4
真空度 吋	8	6	11	11
総重量 gr	271	272	269	269
缶と固型 gr	233	235	233	228
液汁 gr	38	37	36	41
缶 gr	61	58	59	60
固型 gr	172	177	174	178
内容総量 gr	210	214	210	209
形態	2	2	3	3
肉質	2	2	3	3
鮮度	2	2	3	3
香味	2	2	3	3
色沢	2	2	3	3
個数	8	8	9	10
屈折示度	15.0	15.0	15.4	15.6

(7) 考 察

本年度初めて事業試験として取上げたのであるが、本年の如き場合は別として、平年は地の利を得た産地工場に太刀打ち出来ない。さんま罐詰は特に原料の鮮度の良否がその製品の価値を決定するものであるので安い原料に輸送費を掛け、鮮度の悪いものを利用することは考えものである。

今年に於ても、他のメーカーに押され、製造直後では販売価格と生産費とのバランスがとれず、30年3月に持越し漸く平均約21円50銭程度で販売した。

む す び

本年度の罐詰事業は、あさり味付罐詰とさんま味付罐詰に留まり、他に見るべき製品もなく終わってしまったが、一応あさり味付罐詰事業の本県における効果は得られたので、来年度においては、あさり燻製油漬罐詰をとり入れ、漸次味付罐詰を燻製油漬罐詰に切り換え、これを主体にあさり罐詰の多角的製造をはかりたい。

## 三、養 殖 係

### 1. のり養殖試験

前年度に引続き三河湾各地に水平簀養殖の技術改良普及を進めるための基礎試験を行った。一方前年度に引続き水産庁の行っている養殖技術改良普及事業に呼応して強力に技術の改良普及を実施した。

#### 1. 試験項目

- (1) 人工種付
- (2) 種付、養殖並びに漁場効用
- (3) 簀資材と構造

#### 2. 試験方法並びに経過

##### (1) 種付時期

- 第1回 昭和30年9月20日から  
第2回 昭和30年10月2日から5日まで  
第3回 昭和30年10月15、16日

##### (2) 張込期前後の海況気象

本年は春季曇天の日が多く平年より夏を早く迎え秋も早く訪れた。この間雨期は平年より短く雨量も少なかった。

9月に入り気水温も順調に降下し、彼岸は23～4度で、10月始めの本張りは22度台で、10月中旬の遅れ張りは20度でそれぞれ張込んだ。所が9月下旬から10月中旬にかけての降雨量は異常に多く特に10月張込後の雨量は平年の約2倍ありこのため沿岸は濁水で覆われ青のり、硅藻の繁殖は甚だしくこれが本年の豊凶を決定的に左右した。

##### (3) 潮汐と張込水位

本年は9月16日と10月16日が朔大潮、10月2日が望大潮となつているので前述の通り各々遅れ潮に張込んだ。潮位は当初予想した通り昨年より7～8寸低めで張込んだ。結局この線を本年度愛知県10号線と決めた。この潮位は種付期間中大した変動もなかったが、降雨のため大部分青、硅藻の付着が著しかった。

##### (4) 移 殖

以上の様な条件において種付したものを10月下旬から11月上旬にかけて平均3日間干出しを行い、大部分は研究会へ一部は蒲郡市三谷町地先へ移殖し各試験を実施した。

##### (5) 試験期間中の気象海況とのり状況

前記の様に10月上中旬の降雨により青、硅藻の繁殖は甚だしく、移殖時も黒、青の比率は50%づつとなつており、3日から5日間の干出でも駆除する事は困難であつた。しかし一時は押える事が出来たので11月は順調に成育した。12月になり例年の通り暖気による腐れが発生したが葉体は摘採後であり芽付きも比較的薄かつたので流失は免れた。1月に入り季節風もあり2月から3月にかけては降雨に恵まれたので成育も良くかろうじて平年作にまで持つて行く事が出来た。

#### 3. 試験結果

種付張込後の降雨のため青、硅藻の発生著しく、又12月の暖気、無風のため前半においては余り良い成績では無かつたが二次芽の附着と吊替操作により1月から3月まで大部分は好成績を収めた。各試験項目についての結果は省略。

のり成育期間中の各地の気水温比重

	三谷10カ年平均			三谷地先			新舞子			名古屋港			前			浜			伊川津		
	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重	気温	水温	比重
1	6.4	6.8	22.22	5.2	5.7	24.95	6.7	8.3	22.37	1.7	10.1		4.0	5.6	15.46	5.0	4.3		5.0	4.3	20.75
	6.7	6.4	22.51	5.2	4.8	24.26	5.9	7.7	22.26	0.4	8.9		5.8	5.4	20.25	4.8	4.0		4.8	4.0	19.87
	7.0	6.3	22.46	7.3	6.9	24.20	7.0	8.1	22.76	2.0	9.1		7.0	6.0	20.39	5.0	4.6		5.0	4.6	20.00
2	6.0	5.7	22.99	8.2	6.2	23.13	8.5	9.1	23.29	3.9	1.0		8.4	7.5	19.90	8.4	8.1		8.4	8.1	21.30
	7.0	6.8	22.63	8.1	6.7	23.88	7.1	8.5	23.43	2.2	9.1		8.4	7.2	18.30	6.6	5.7		6.6	5.7	20.35
	8.4	6.8	22.19	10.3	7.5	24.91	9.1	9.2	22.62	3.8	7.6		9.0	7.9	19.38	9.6	8.8		9.6	8.8	20.88
3	9.0	8.3	22.38	11.1	9.4	23.53	10.5	10.3	20.87	3.4	10.5		11.4	8.7	21.70	9.1	9.2		9.1	9.2	18.30
	10.2	9.1	22.22	10.2	9.5	20.74	9.2	10.2	22.15	7.8	10.9		15.1	12.9	23.0	11.2	10.9		11.2	10.9	20.09
	10.2	10.4	21.40	11.9	10.8	22.36	12.7	11.8	17.68	11.7	13.1		13.5	11.6		11.3	13.2		11.3	13.2	20.50
4	10.5	13.1	20.93	13.4	13.6	21.24	14.3	14.0	19.83	10.9	12.5		15.5	13.5		11.8	13.3		11.8	13.3	14.17
	16.3	14.9	20.41	18.1	16.7	20.77	16.0	15.8	19.19	14.8	16.1		17.5	16.3		16.0	18.3		16.0	18.3	17.50
	16.1	14.9	20.00	15.9	16.2	13.65	15.7	15.7	18.61	13.1	13.7		15.7	15.1	22.50	13.8	13.7		13.8	13.7	17.02
5	18.4	18.5	20.13	19.1	19.4	12.24	18.7	18.1	18.47	19.1	17.5	19.04	18.1	16.9	18.75	19.7	21.0		19.7	21.0	19.20
	20.1	19.8	18.78	19.5	20.2	16.53	19.9	19.3	18.19	20.3	19.6	18.80	18.9	18.6	18.95	20.9	22.2		20.9	22.2	23.70
	20.9	21.0	20.61	21.4	21.4	20.68	20.5	19.9	17.96	21.4	19.8	19.1	19.6	19.5	19.10						
6	22.0	22.0	20.21	23.5	23.5	17.76	22.3	21.4	18.05	23.4	21.8	18.19	18.1	19.5							
	22.9	23.1	18.32	23.0	24.3	18.61	22.2	23.6	17.02	24.4	24.4	16.56	18.9	18.6							
	20.6	24.5	17.86	26.5	26.2	26.4	26.4	26.3	10.48	27.0	25.3	13.15	15.7	15.1							
7	25.9	25.5	19.34	26.7	26.4	16.25	26.7	26.6	12.31	28.1	27.1	13.59	18.1	16.9							
	26.5	26.5	18.47	28.8	29.8	22.71	29.9	28.9	13.69	30.8	29.1	10.82	18.9	18.6							
	28.2	28.3	18.26	28.6	29.4	21.23	30.4	30.2	16.67	30.4	29.7	13.62	19.6	19.5							
8	30.6	29.6	20.21	30.3	30.3	22.04	29.0	29.1	19.83	31.2	30.2	18.50	30.3	29.4	28.65						
	29.4	29.5	21.24	30.3	30.6	22.29	30.3	29.0	22.72	26.2	27.2	22.59	28.7	29.0	14.35						
	28.4	27.7	20.52	27.2	28.5	22.54	24.3	24.1	20.96	28.4	28.9	17.84	26.1	24.5	10.55						
9	27.6	27.1	20.29	26.3	26.2	22.04	25.3	25.9	21.30	26.9	28.0	21.42	24.3	24.8	15.70						
	26.4	25.9	19.62	28.3	27.1	22.29	24.3	24.1	20.96	26.2	27.2	22.59	28.7	29.0	14.35						
	24.1	24.0	21.92	24.8	24.3	22.54	22.3	22.3	17.59	24.3	25.9	21.97	26.1	24.2	13.33						
10	21.7	22.1	18.51	22.6	22.6	20.29	22.0	22.7	17.59	21.6	24.9	20.95	30.3	29.4	28.65						
	20.7	20.4	18.35	19.7	20.4	22.54	19.1	20.4	19.51	18.1	22.1	22.74	28.7	29.0	14.35						
	19.4	18.9	19.37	18.8	18.5	18.98	18.5	19.6	18.12	17.3	21.4	22.42	26.1	24.5	10.55						
11	17.8	17.0	20.48	14.8	15.6	19.80	14.9	16.7	19.97	12.1	19.5	22.41	11.8	10.4	15.00						
	14.6	14.3	21.40	14.6	14.8	21.53	14.7	15.5	22.46	11.8	18.1	23.12	13.0	11.8	18.69						
	13.3	13.3	20.79	14.5	14.6	20.95	14.6	16.3	21.90	11.3	17.3	23.55	12.5	12.9	18.44						
12	10.8	12.0	21.46	12.3	11.5	22.22	11.5	12.7	21.97	8.1	15.5	23.27	9.9	10.2	15.28						
	8.6	8.9	21.93	11.8	9.8	22.02	12.1	12.5	23.18	7.6	14.8	23.39	9.7	9.9	10.94						
	8.6	8.1	22.27	11.4	10.2	22.58	8.58	12.5	23.18	8.6	12.5	23.18	7.8	8.1	18.67						



ツリ 洪産松期即依リ各地の風、水溫、比重

場 所	三 谷			名 古 屋			新 舞 子			師 崎 中 学			前 浜			牟 呂			伊 川 津		
	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重	気温	水溫	比重
9月 11日	25.0	27.0	21.95	25.8	27.2	23.19				25.0	24.5	22.03	22.0	23.0	11.59	24.5	24.5	17.19			
12	30.5	28.7	21.95	26.0	27.4	22.85				24.5	25.0	23.32	23.5	24.5	12.05	25.0	25.0	19.55			
13	30.5	28.7	21.82	26.8	27.0	22.26				26.5	26.0	22.57	24.5	25.0	22.29	26.0	26.0	18.48			
14	32.2	30.5		28.2	28.0	22.44				29.0	28.0	23.10				27.0	27.0	20.28			
15	31.5	27.5	20.94	29.6	28.2	22.44	25.9	26.8	23.10	29.0	28.0	21.07	25.0	26.0		27.0	27.0	20.28	29.0	32.0	22.03
16	29.0	27.0	20.79	27.8	28.2	22.06	25.8	26.3	20.60	28.0	25.0	22.29	20.5	23.0		27.0	27.0	19.76			
17		27.0	26.35	23.0	27.2	22.52	25.6	25.4	23.94	24.0	26.0	21.55	25.2	23.8		25.0	25.0	19.74			
18				28.3	27.2	21.88	24.0	24.9	20.22	29.0	26.0	22.57	23.0	23.0		25.5	25.5		28.5	27.5	22.70
19	24.8	24.0	25.81	24.2	26.4	22.96	22.6	23.7	22.97	26.0	25.0	22.29	23.0	23.0		24.0	24.0	18.99	24.8	23.3	21.80
20	23.0	24.5	18.72	22.0	25.6	23.21	21.6	23.3	19.81	21.6	22.1	22.29	22.0	21.5		23.0	23.0	19.74	22.2	22.3	
21	24.5	23.9	24.82	23.4	25.4	22.25	22.1	22.8	19.15	22.8	22.9	19.70	22.0	21.5		23.2	23.0	18.99	22.2	22.5	21.90
22	22.8	23.0	26.37	22.9	26.2	23.37	21.6	22.9	19.70	21.6	24.3	21.49	25.5	24.0		24.0	23.2	21.26	24.5	23.8	22.00
23	24.7	24.5	22.27	24.8	26.2	21.38	24.7	24.3	21.49	24.7	24.3	20.68	23.0	23.0		24.0	23.0	19.68	25.2	24.0	21.10
24	24.8	24.3	22.47	24.4	26.0	22.35	26.5	24.3	20.68	24.8	24.6	21.98	23.0	23.0		23.0	23.0	20.24	24.5	23.8	20.90
25	26.5	25.2	23.40	22.9	25.8	22.75	24.8	24.6	21.98	24.8	24.6	21.98	23.0	22.7		23.4	23.7	21.24	24.5	23.8	20.90
26	26.0	25.2	23.65	22.7	25.8	22.81	25.4	25.4	19.84	25.4	25.4	19.84	20.5	24.0		24.0	24.0	19.48	25.5	24.3	21.10
27	22.2	23.4	23.04				22.2	23.2	20.50				20.5	24.0		24.0	24.0	18.97			
28	22.5	23.1	18.57	21.6	25.8	23.16	22.8	24.0	23.50	22.8	24.0	23.50	18.5	21.5	21.00	22.8	22.8	19.18	21.5	23.3	18.80
29	25.1	25.5	23.05	28.8	25.6	23.88	26.9	24.0	19.07	26.9	24.0	19.07	23.5	21.5	15.56	23.6	23.6	18.87	27.0	24.0	21.00
30	28.0	25.1	21.95	27.8	25.8	15.30	25.8	24.8	23.57	24.8	24.8	23.57	25.5	23.5	17.82	26.0	24.5	22.15	26.0	26.0	20.20
10月 1日	26.1	24.5	18.33	25.2	25.8	20.31	24.8	25.5	9.64	24.8	25.5	9.64	20.0	22.5		25.0	24.0	21.01	23.5	24.5	22.50
2				22.4	25.8	19.23	23.4	23.8	17.09	23.4	23.8	17.09	20.0	22.5	19.09	24.0	24.0	18.46	19.0	23.0	22.10
3	24.0	24.1	14.18	22.0	25.2	20.10	22.5	22.8	10.73	22.5	22.8	10.73	21.2	21.7	13.88	24.0	22.0	23.55	26.5	25.0	21.80
4	29.0	24.0	18.97	26.2	25.4	20.75	24.2	24.0	20.50	24.2	24.0	20.50	24.0	23.0	15.50	26.7	21.5	20.38	26.7	25.0	22.30
5	26.4	24.5	20.31	25.4	25.6	18.78	24.9	24.0	20.19	24.9	24.0	20.19	20.0	20.0		26.7	21.5	20.38			
6	19.8	23.0	22.41	20.4	25.0	20.40	21.0	22.6	21.93	21.0	22.6	21.93	20.0	22.0		26.7	21.5	20.38			
7	19.8	23.2	24.37				20.4	22.5	20.12	20.4	22.5	20.12	20.0	22.2		26.7	21.5	20.38			
8	18.7	19.5	22.48	17.8	24.2	22.33	19.9	19.9	15.45	19.9	19.9	15.45	18.5	21.5		26.7	21.5	20.38			
9	23.0	21.0	21.27	17.4	24.0	23.18	20.5	21.0	19.76	20.5	21.0	19.76	20.0	22.0		20.0	21.0				
10	17.0	19.7	20.31	17.2	23.8	24.05	18.2	19.7	20.46	18.2	19.7	20.46	18.5	21.6	14.31	18.5	21.6	14.31			
11	16.3	18.5	20.95	16.0	24.0	24.74	21.2	19.6	20.44	21.2	19.6	20.44	17.5	18.5	16.67	17.5	18.5	16.67			
12	18.8	21.5	24.14	16.5	23.2	23.96	20.8	19.6	20.44	20.8	19.6	20.44	20.0	22.5		20.0	21.0				
13	21.9	22.0	24.78	17.8	23.0	23.96	20.2	19.6	18.93	20.2	19.6	18.93	20.0	22.0		20.0	21.0				
14	20.3	20.0	22.29	18.0	22.0	23.39	18.6	19.9	17.98	18.6	19.9	17.98	21.2	21.7		21.2	21.7				
15	21.5	21.5	23.33	20.6	21.8	22.85	23.0	21.0	21.40	23.0	21.0	21.40	20.0	23.5		20.0	23.5				
16	21.8	22.0	23.56	17.9	21.8	22.74	6.3	18.9	20.90	6.3	18.9	20.90	20.0	23.5		20.0	23.5				
17	20.3	20.5	21.66	17.8	21.0	21.58	17.5	20.9	21.70	17.5	20.9	21.70	21.2	21.7		21.2	21.7				
18	19.3	19.2	21.02	20.2	21.4	21.23	19.6	21.0	19.76	19.6	21.0	19.76	20.0	22.0		20.0	22.0				
19	16.0	19.0	21.20	17.5	21.2	21.07	16.7	20.9	20.74	16.7	20.9	20.74	20.0	22.0		20.0	22.0				
20	20.9	19.3	21.42	17.4	21.4	22.55	17.2	20.9	21.25	17.2	20.9	21.25	20.0	22.0		20.0	22.0				
21	18.7	18.5	20.39	17.9	21.2	21.17	19.5	18.6	16.79	19.5	18.6	16.79	20.0	22.0		20.0	22.0				
22	18.7	18.7	22.23	15.6	21.4	22.55	16.2	18.9	19.08	16.2	18.9	19.08	20.0	22.0		20.0	22.0				
23	21.0	18.0	16.05	16.1	21.6	23.20	16.7	20.1	20.26	16.7	20.1	20.26	20.0	22.0		20.0	22.0				
24	19.4	17.5	15.18	16.9	21.6	23.15	18.9	20.2	17.54	18.9	20.2	17.54	20.0	22.0		20.0	22.0				
25	18.0	18.0	15.27	17.0	21.4	23.15	19.1	19.9	15.45	19.1	19.9	15.45	20.0	22.0		20.0	22.0				
26	19.5	18.5	20.65	16.3	20.8	20.94	19.7	20.6	19.46	19.7	20.6	19.46	20.0	22.0		20.0	22.0				
27				19.2	21.4	21.68	20.4	20.7	19.18	20.4	20.7	19.18	20.0	22.0		20.0	22.0				
28	18.0	18.5	18.45	17.9	21.6	23.30	18.4	19.3	16.84	18.4	19.3	16.84	20.0	22.0		20.0	22.0				
29	22.4	21.5	19.39	21.6	21.8	22.38	22.3	20.0	19.02	22.3	20.0	19.02	20.0	22.0		20.0	22.0				
30	19.0	18.0		18.4	21.6	22.69	16.1	18.0	16.73	16.1	18.0	16.73	20.0	22.0		20.0	22.0				
31	15.0	18.0	23.21	13.7	21.0	22.45	15.1	18.2	18.02	15.1	18.2	18.02									

## 2. のり養殖技術改良普及事業

### [1] のり養殖専門技術員の指導状況

#### 1. 養殖方法の改良普及指導

昭和26年度より行ってきた本県の水平筏転換5ケ年計画も最終年となつたが、その状況は次の通りである。

年次	組合数	戸数	人数	面積	網筏	竹浮筏	粗朶	生産枚数
		戸	人	千坪	枚	枚	千株	百万枚
26	50	8,191	24,820	3,000	1,730	1,000	2,470	124
27	55	8,543	27,167	5,054	12,230	6,000	2,795	176
28	58	8,937	30,477	5,064	90,230	1,621	2,213	108
29	61	9,095	32,000	6,198	166,365	1,431	2,050	241
30	65	9,235	32,500	7,048	318,786	2,209	1,785	300

網筏は10間×4尺 竹筏は10間×7.5尺 粗朶は長一丈のもの  
30年度の生産枚数は推定である。

上表の通り養殖面積、施設数量は年々増加の一途を辿っており、もちろん生産数量もこれに伴い増加しているが、決して能率的な生産をあげているとは云えない。これは漁場の開発と水平筏への転換に際して、その生産力に応じた適正施設数量を把握していないからであり、この問題は網1枚の張場を決定するに必要な種々の要因を探究しなければ解決の方途は立たないものと思はれる。

そこで昨年度に引続き最低30坪から最大50坪迄を5階級に分け、各研究会に試験を実施させつつある。

#### 2. 筏操作の指導

種付時の指導は、県下全般には通報、ラジオ、新聞による他本年は特にその徹底を計るため9月、10月まで各地で講習会、座談会を開催し、直接指導を行つた。移殖後も通報は勿論の事、昨年引続き毎週火曜日に朝日新聞と中部日本新聞に「のり養殖週報」を公表、好評を博した。

特に昨年決定した「吊換号線」も徹底し指示を安易ならしめた。

##### (1) 新聞によるもの

9月28日 本年の建込予想（気象海況、潮汐、建込時期、建込水位の予想）

10月2日 本年の筏張込（気象海況、潮汐、建込時期並びに建込水位の決定、胞子の浮上状況）

##### (2) ラジオによるもの

9月29日 本年の建込予想（建込についての諸注意）

##### (3) のり養殖通報

9月26日 本年の建込予想（気象海況、降雨、潮汐、建込水位等に関する諸注意）

10月28日 移殖後の筏管理について

##### (4) のり養殖週報

10月12日から3月26日まで24回に亘り、毎週火曜日ののり養殖に関する面、特に筏操作について通報した。

##### (5) 講習会、座談会、研究会、漁場診断

月別に纏めると次表の通りである。

月	延回数	延出席者	延時間	内 容	備 考
4	1	70	2	のり養殖全般 スライド他	社会学級1回青年学級1回 顕微鏡講習1回 参加者120名 社会学級2回
5	2	40	6	〃 乾燥機について	
7	1	35	3	〃 漁場計画	
8	5	260	12	〃 浅海内湾開発スライド他	
9	10	1,050	29	本年度の建込について	
10	6	350	22	のり養殖全般(種付 移殖管理について)	
11	5	150	23	〃 (二次芽施肥について)	
12	3	70	10	〃 (筥管理、腐れ対策について)	
1	3	25	7	〃 ( 〃 施肥について)	
2	2	60	6	のり養殖全般(管理、施肥について)	
3	1	30	3	〃 ( 〃 人工種付について)	
計	39	2,140	123		
尾張分場	16	560	37	のり養殖全般(人工種付について)	
合 計	55	2,700	160		

### 3. 地子種の育成指導

現在本県のり養殖業において最も腐心している事項は種の不足である。しかしいわゆる移殖種場はすでに狭隘を告げている今日、残された方途は地子種の育成と、別項の県外種の移入より他に無いといつても過言ではない。

そこで本年度は県外種もさる事ながら、従来移殖を行わず、水平筥に転換してから移殖を始めた様な場所について、所属研究会等を通じ、直接指導の下に試験を実施せしめた所、一部において移殖種場のものより好成績を収めている。

別項通報の通り大部分の地子場においては、10月の降雨のため雑藻甚だしく不成績に終っているが、これは移殖種場においても同様な結果が出ている事からもうなずける。

### 4. 県外種の移殖

本県の移殖種筥連合会は、発会后すでに3年、又種筥供給組合連合会も発足し、種筥の需給は円滑に行われているが、一方種場の開発、地子種の育成もさる事ながら、数万の種筥の不足は現在本県にとつて最大腐心事といわれなければならない。

そこで本年は水試の指導のもとに県外種の移殖を実施し、相当な成果をあげた。

次に本県種筥の需給状況を示す。

区 分	昭 和 30 年 度				昭 和 31 年 度 計 画			
	網 筥	竹 浮 筥	粗 朶	総換算計	網 筥	竹 浮 筥	粗 朶	総換算計
県 内 (8ヶ所)	83,600枚	1,620枚	225,100株	95,030枚	94,000枚	1,950枚	225,000株	105,925枚
県	三重県(3ヶ所)	1,000		1,000	3,000			3,000
	千葉県(5ヶ所)	5,000		5,000	6,000			6,000
	福島県(1ヶ所)	3,000		3,000	20,000			20,000
外	宮城県(1ヶ所)	8,300	300	8,600	18,000	500		18,500
	計	17,300		17,600	47,000	500		47,500
総 計	100,900	1,920	225,100	112,630	141,000	2,450	225,000	153,425

上表の内千葉県、福島県は昨年度より某仲介者のもとに多少は行われてきているが、移殖技術等による差異、価格の点等から考え合せ、来年度から徐々に種筥連合会で一本に纏めて実施の予定である。なお県外種筥についてのアンケートを行つているので、結果を期待している。上表中網換算率は竹浮筥は×1.5、粗朶は× $\frac{1}{2}$ である。

### 5. 資材の転換指導

昨年度に引続き化学繊維の網について普及指導してきたが、本年度は特にこれまで「化学繊維は初年度は余り良くなく、二年目のものからは良い」との結果より、これは「繊維の老化が孢子附着に良く、摘採時も芽の脱落がない」との結論を出し、初年度よりの状態にもつてゆけば、2年目と同じ成果があがるのではないかと考えられたので、或種の樹脂加工と染色を施し、画一的な種付を行った後県下各地の研究会に配布、試験を委任した。結果は次の通りである。

種 類	処 理 別	試 験 地 区				備 考
		A	B	C	D	
コイルヤーン (新網)	無 処 理	2,650	1,630	1,240	980	
クレモナ (新網)	樹脂加工	2,520	1,890	1,080	950	
” (新網)	無 処 理	890	—	—	—	
” (2年目のもの)	”	1,860	1,110	970	870	
サラソ (2年目のもの)	”	850	950	—	2,590	

表中の各収穫枚数は数枚の網を平均したものの。

上表は条件を異にしているの、完全な比較試験とは云えないが、或種の傾向は示されているものと云える。

この他初年度のコイルヤーンを「あく」抜きし、尿素液に浸漬したものも使用したが、これは余り効果がなかつたようである。

### 6. 生のり乾燥機の普及指導

この代表的なものとして回転式の乾燥機があり、周知の通り高性能であるが、業者もこれを認識し、相当数購入設置したが、本年は10月の多雨のためか11月は寡雨でのりも割合に少く余り必要を感じなかつたようである。

ただ製造工程を円滑にするためと、労働力の節減のため天日を全然使わず、最後まで乾燥器を使用したものが十数人あつたが、これ等は真に乾燥機使用の価値を高めたものと云えよう。

### 7. 研究グループの活動状況

#### (1) 研究会の現状

本県の研究会は各組合を母体として発会しているので、各組合一つ宛となつている。

研究会名	代表者氏名	結 成 年 月 日	構 成 人 員	組 合 従 業 戸 数	活 動 状 況
鍋 田	黒宮 治	27. 6. 5	22人	339戸	座談会、潮位測定、地子種試験
飛 鳥	渡辺 喜一	27. 6. 20	20	351	” ” 県外視察、化繊試験
蟹 江	鈴木金太郎	27. 6. 20	10	54	” ” ”
港	坂 章司	27. 6. 20	14	14	” 県外視察、化繊試験
下之一色	西川初次郎	26. 8. 20	10	33	” 潮位測定、浮動網試験
笠 寺	森 秋夫	27. 6. 20	41	61	” 県外視察、潮位測定、化繊角目網試験
熱 田	吉田 実	26. 6. 1	5	21	” ” ” のり養殖業総合試験
横 須 賀	井上弥三郎	29. 7. 15	30	330	” ” ” 地子種、県外種移殖試験
八幡平井	森田 留治	28. 8. 1	8	113	” ” 地子種の試験
新 知	西尾 武雄	29. 8. 1	28	286	座談会、県外視察、潮位測定
西 浦	谷川 石二	26. 8. 10	34	34	” ” ” 年間観察 種場試験
宮 貴	原田浅太郎	28. 10. 15	19	30	” 成育場試験 ”
東 浦	新美 春坂	29. 10. 4	5	25	視察見学、化繊、浮動網、移殖試験
衣ヶ浦	森 桂一	28. 8. 1	6	15	座談会、県外視察、潮位測定、浮動網竹筴伝染網試験
高 浜	酒井 安吉	28. 8. 1	18	46	” ” 観測、密殖試験
新 川	石川 嘉弘	28. 5. 5	7	20	” 視察、潮位測定、浮動網二次芽抑制網試験

前	浜	藤浦 徳貞	27. 7. 1	9	80	〃	潮位測定、県外視察、年間観察、芽の試験
寺	津	斎藤 利一	30. 1. 5	30	153	〃	〃
栄	生	水野 権一	29.11.24	30	47	〃	〃 視察、種場試験
味	沢	田中 一己	30. 1.18	12	128	〃	〃
吉	田	加藤 秀吉	29. 9. 1	4	412	〃	〃 視察
御	馬	横田 定次	28. 4.23	5	280	〃	〃
下	佐 脇	長木 一	28. 8. 1	18	360	〃	〃 移殖試験
前	芝海盛会	加藤 精一	28. 6. 6	44	280	〃	〃 県外視察、化繊抑制網試験 人
梅	藪	春田 輝雄	28. 6. 6	10	134	〃	〃 人工種付試験
伊	奈	中西 治平	29. 8.30	12	214	〃	〃 人工種付試験
口	色野	牧平 鶴治	29. 8.30	7	63	〃	〃 県外視察、漁場の高度利用試験 人
平	井	山本 亘	28. 6. 6	10	139	〃	〃 潮位測定、県外視察、化繊試験 人
渡	津	長坂 金雄	27. 5.20	11	330	〃	〃 潮位測定、県外視察、化繊試験、人工種付試験
牟	呂	古関 孝一	〃	47	1,015	〃	〃 座談会、潮位測定、県外視察、化繊 肥料試験 人
大	崎	白井 崇二	〃	6	350	〃	〃 〃 〃 二段張試験
老	津	彦坂 誠一	28. 7. 1	6	〃	〃	〃 〃 〃 化繊肥料試験
泉		川合 政雄	28. 7. 1	57	57	〃	〃 〃 〃 視察、移殖試験
清	田	朽名 格	29.10. 1	7	350	〃	〃 〃 〃 潮位測定、視察見学

※ 註 人とあるのは人工種付試験の略

県下ののり養殖組合と研究会の現状を比較してみると次表の通りである。

種 別	数	員 数	顕微鏡を有するもの	年間使用経費	備 考
漁 業 組 合	65	10,100	} 20	5 ~10万円	
研 究 会	34	602		最高 15万円	

## (2) 活動状況

### イ、諸事項の連絡、普及、徹底

水試よりの通報、通信等による指示事項、講習会、連合研究会、座談会或いは県外視察等によつて得た新知識等を一般組合員に周知徹底させる様、個々に座談会、研究会等を開いたり、パンフレットを作成して反覆実施している。この場合時間の許す限り水試からも出席している。又マイクを通じて街頭放送を行つている所もあり、特に建込時には舟にマイクを取付けて現場放送をも実施している。これは非常に効果があつたので、今後共続けるよう進めてゆく。

### ロ、諸観測の実施

#### (イ) 潮位測定

各地先で例年通り8月、9月の大潮に2回、気象海況、潮位について実施し、この結果は水試において取纏め再び各地に通報、研究会はこれにより漁場各所に号線の木杭を立て、一般組合員に示した。

#### (ロ) 一般観測

県下の重要な移殖種場並びに地子種場を選び該地の研究会に実施させた。種場観測は9月15日から10月31日まで、養殖場観測は11月1日から翌3月31日まで、種場においては毎日のがきで、養殖場においては1週間に1度報告させた。その結果は水試にて取纏め、新聞で報知した。

### ハ、各種試験の実施

代表的な項目をあげると、人工種付、彼岸張、段張、新種場、新養殖場の効用化、資材、二次芽採苗、浮動篋、吊替操作による収量差、抑制網、施肥、乾燥機等の試験があるが、これは新技術をとり入れる場合、各地先に適合した方法を見出すため行つているので、その結果は非

常に役立つおり、合せて水試においても指示を与え、又試験結果は検討の上、指導上の基礎にしている。

特に豊橋市における「干潟利用によるのり人工種付」(国庫補助事業)と「簡単なのり人工種付」は或程度実用化の目安を得、各地の注目を浴びている。

ニ、先進地の視察

過半数の研究会が1~3月の小潮時を選んで、県内或いは県外の先進地を視察し、新技術並びに経営方法等につき調査の上、帰省後座談会等を開き討論している。

時間の許す限り水試からも随行し、習得に便ならしめている。

ホ、研究発表会

毎年行っているが、本年は水産庁主催による水産業技術改良普及研究発表第二回全国大会に呼応して、県主催、愛知のり協議会研究部会後援の下に行つた。

(イ) とき 昭和31年1月31日

(ロ) ところ 愛知県水産会館

(ハ) 参加者 水産庁杉田技官、東海水研須藤技官、愛知県庁、水産試験場、東大新舞子実験所、三谷水産高校、県下各漁協研究会員約150名 計220名

(ニ) 研究発表題目、所属並びに発表者

No.	題 目	所 属	発 表 者
1	サラン網を使用して	大崎のり研究会	高 田 信 義
2	網浜資材試験	牟呂 "	加 藤 忠 男
③	のり箕に合成繊維クレモナを使用して	渡津 "	長 坂 金 雄
4	各漁場における段線張試験	大崎 "	白 井 泰 夫
5	伝染採苗について	上野のり研究会	伊 藤 正 夫
◎ 6	簡単なのり人工種付試験	牟呂 "	森 田 正 治
◎ 7	干潟利用によるのり人工種付試験	六条潟 "	加 藤 精 一
⑧	網浜操作によるのり芽の増減	前浜 "	藤 浦 徳 貞
9	私達の漁場と潮流	新川 "	石 川 嘉 弘
10	白腐れについて	大浜	鈴 木 磯 吉

上記のうちから詮衡の上○印のものを選出、全国大会に参加、更に水産庁にて詮衡の上 ◎のものが発表した。

県大会では先達漁業も併せて行い5題のうち1題を選出したこれ等の記録は一括印刷し漁業者に配布の予定。

(ニ) 講 演

各地産のり種の性質について(スライド説明)東海水研須藤技官

へ、その他

2月22日に日本水産学会中部支部主催によるのりのシンポジウムが愛知県水産会館において行われ、相当数の研究会員が出席、活発な質疑応答が行われた。講演は次の三題であつた。

(イ) 伊勢三河湾産のり品種と病害について 東京大学 新 崎 教 授

(ロ) 本年の東京湾のり不作原因について 東海水研 須 藤 技 官

(ハ) あおのりの孢子について 三重大学 瀬 木 教 授

## 〔Ⅱ〕 種苗生産管理実施状況

### 1. 漁場名 漁業権者名 漁場面積

漁場名	漁業権者	面積
牟呂3号種場	豊橋市牟呂漁業協同組合	510,000 <sup>坪</sup>
福江湾種場	渥美郡渥美町 小中山漁協外臨湾6ヶ組合	200,000
大崎長松州種場	豊橋市大崎町 大崎漁業協同組合	90,000
大州崎種場	渥美郡田原町 田原漁業協同組合	50,000

### 2. 種場測量並びに場割実施概要

前年ののり養殖期間の終る4月末愛知県への移殖組合連合会と協議の上、本年度の各漁協毎の種場別、資材別、種苗需給量を調査し、一方種場の漁業権者より本年度の漁場計画を提出させ、6月末に海区漁業調整委員会、水試、漁業権者、移殖連合会協議の上場割を決めた。

7月に入ってからは大場割（100間×50間）を実施し、8.9月で一斉に杭柵を施設した。

建込後数回に亘る台風のため杭柵の流失甚だしく、網の流失、破損も相当あつたので早期の移殖を余儀なくされた所もあつた。

### 3. 実施効果

浅海開発事業並びに養殖方法の改良普及と並行して種場の開発を実施した結果、各種場において次のような成績をあげた。（既往4カ年間の比較）

#### イ、牟呂三号種場

年次	面積	網	竹	粗	桑
	坪	枚	枚		株
27	200,000	2,000	1,500		500,000
28	500,000	54,000	1,320		569,860
29	510,000	87,000	700		226,000
30	550,000	100,000	1,430		149,000

#### ロ、福江湾種場

年次	面積	網	竹	粗	桑
27	100,000	2,850			400,000
28	150,000	5,970	バレン	10	434,450
29	180,000	10,000	バレン	300,000	202,400
30	185,000	29,000		120	75,000

#### ハ、大崎長松州種場

年次	面積	網	竹	粗	桑
27	15,000	—			12,000
28	35,000	1,200		200	20,000
29	90,000	7,000		10	10,000
30	100,000	9,000		—	5,000

#### ニ、大州崎種場

年次	面積	網	竹	粗	桑
27	3,000	—			10,000
28	30,000	550		50	70,000
29	50,000	730		80	50,000
30	55,000	3,600		—	—

ホ、三河湾における種篋需給状況

年度	面積	網篋	竹篋	粗朶	バレン
	坪	枚	枚	株	
27	318,000	4,250	1,510	922,000	—
28	715,000	61,720	1,580	1,094,310	200,000
29	830,000	104,730	790	501,400	300,000
30	890,000	141,600	1,550	229,000	

〔Ⅲ〕 漁場観測速報実施状況

1. 種苗場観測

県下の主要な移殖種場並びに地子種場で次の要領により実施した。

(1) 観測期間

昭和30年9月10日から10月31日まで毎日1回原則として10時

(2) 観測場所

各区域で前記の様に主要な場所を選定した。

区 域	代 表 場 所	観 測 者
伊勢、三河湾口	渥美郡渥美町中山地先	伊良湖測候所
福 江 湾	” ” 伊川津地先	東大伊川津実験所
三河湾 南東部	豊橋市牟呂町地先	地元研究会
” 東 部	蒲郡市三谷町地先	水産試験場
” 北 部	碧南市前浜町地先	地元研究会
知 多 東 部	知多郡師崎町地先	地元中学校
名古屋港附近	名古屋市熱田区地先	地元研究会

(3) 観測項目

天候、風向力、気温、水温、比重

(4) 通報実施状況

前記9カ所へ観測項目を印刷したはがきを50枚宛配布し、観測者は即日水産試験場宛速報した。水産試験場においては専門技術員に取纏めさせ、結果を新聞、ラジオ、のり養殖通報等により通報した。

2. 生育場観測

県下各地で次の要領により実施した。

イ、観測期間

昭和30年11月1日から昭和31年3月31日まで毎日1回、原則として10時

ロ、観測場所

種苗場とほぼ同場所で行った。

ハ、観測項目

種場観測に同じ

ニ、通報実施状況

各観測者へ観測取纏表を配布し、観測者は1週間毎に水試へ報告した。

水試においては専門技術員に取纏めさせ、のり養殖週報（新聞）により通報した。

3. 潮位測定

専門技術員の指導の項

4. 観測通報による効果



種付については秋芽、二次芽の建込の時期、場所、水位を予知でき、優良な種を得られた。成育については期間中の簀操作は勿論、害敵、災害を予知でき、事前に対策を講じたので増収が得られた。

### 〔Ⅲ〕 低位生産性漁場優良化試験

#### 1. 試験漁場並びに試験事項選定の理由

種苗場としては前年とほぼ同様牟呂三号、福江湾、大崎、犬州崎を対象として実施した。

育成場としては前年米の技術改良普及事業の実施により、のりの増産がみられ、し業の有利性を認識してきたので、未利用地の開発は著しく、従つて試験地もここを対象として前記開発種苗を移植して実施した。

#### 2. 試験経過

本年は建込まで気象海況とも非常に順調な経過を辿つてきたが、10月始建込後数回に亘る台風のため、種場は淡水化し、青、硅藻の附着が著しかつた。しかし移植時乾出し等の処置をとつたものは駆除する事ができた。本年は全般的は12月の腐れはなく年が明けたが、抑制網としての管理を行つたものは3月まで相当の生産をあげた。

#### 3. 試験結果

種苗場並びに育成場の総合試験結果は次表の通りである。

区 分	牟 呂		福 江 湾		大 崎		大 州 崎		万 石 浦	
	芽 数 (1寸間)	生産枚数	芽 数	生産枚数	芽 数	生産枚数	芽 数	生産枚数	芽 数	生産枚数
三河北部区域における既存漁場	55	100	52	90	45	75	49	80	47	80
三河湾 東 部	〃	90	〃	—	〃	—	〃	90	〃	75
〃 北 部	〃	95	〃	—	〃	60	〃	85	〃	80
〃 北西部	〃	100	〃	100	—	—	〃	—	〃	80
伊勢湾 東 部	〃	190	〃	95	—	65	〃	100	〃	100
〃 北 部	〃	120	〃	110	—	75	〃	95	〃	90

※ 芽数は移植時、数枚の網から1cm宛採取し10倍の拡大鏡で認められる大きさ以上のものの平均、太字は基準生産枚数(1,500)

この結果から見ると当初の種付が相当影響して、極端な差が出たように思えるがこれは吊替操作と抑制網の管理の如何によるものである事は見逃せない。また低位生産性の漁場は一概に可能ならしめられるものではなく、経営の形態、規模によつて効用の可否が決定されるものであろう。

すなわち「個当りの施設量を集中的に増大すれば経営はなり立つが、個々に少数の施設を行つたのでは成立しない」と結論づけられるが、これは大規模な経営形態を意味するものである。

本県の現下の急務は種苗の確保であるが、これは地子種、県外種の移入、人工種付完成等に待つ所大であるので、次年度においてもこの方面を強力に推し進めてゆく、又養殖については、確保した種によりその操作の普及徹底を積極的に指導してゆく。

### 3. かき養殖技術改良普及事業

県下のかき養殖は近年異常斃死に悩まされ、宮城産垂下養殖では8割程度の被害を受けている。これは今迄宮城県種苗が成長身入りの点で優れ又異常の大量斃死が起る事が少なかつたためであつた。しかし近年高鹹度、高水温の漁場では宮城種の斃死が特に甚しいので今年度よりのかき養殖技術改良普及事業は斃死に強い優良地子種の採苗を主眼とした。それと共に低位生産性漁場の開発を実施した。